



# 共同通信



2006年12月22日 125号(335号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22  
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 歯ざしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 25

『自分・・・そして“友だち”そして・・・今のわたし』

今回、共同通信の表紙を書くことになり、何を書こうかな・・・と考えたのですが、自分のことをかけばいい～とのことで、自分のことを書かせてもらうことにしました。こんな人生を送っています、こんな人間です、などと表にする機会はあまりないので、少し自分をさらけ出すように恥ずかしい気持ちもあります。が・・・。

私は高知県香美郡という所で生まれました。それはそれは田舎で、周りには家が一軒、二軒、三軒！？買い物に行くとなると、数時間かけてスーパーに行き、買いため。しかし、卵には困りませんでした。生みたての卵をニワトリからもらっていましたから。晩御飯のメニューには、いのし

し、しか、うさぎ・・・というものまで出てきて、それを普通！？に食べているというのが、私の生まれ育った所なのです。育ったと言っても二、三年ほどで、それから父の仕事の都合で今住んでいる神戸にやって来ました。神戸に住むようになってからも、夏休みになると家族で田舎へ帰っていました。

そこで、幼かった私にとって遊ぶ言えば、近くの川へ行行って上流へと上ったり、カニや魚を捕まえたり～あるいは、山に散歩に行行って、セミをはじめとする色々な虫探し。時にはヘビにも出会うことも！また、その家からは見渡す限り山！山！山！！山をじーっと、時間を忘れて眺める～というのもなかなか。ヤッホー！

と言うと、本当に鮮明に返ってきた時は感動したのを今でも覚えています。一人で何度も何度も、色々な言葉を言って山びこを楽しんだものです。さて、神戸にやって来てからは、いたって普通の生活～と言っても以前の生活に比べると都会育ちと言うことになるのでしょうか。自分の幼少期を思うと、常に外で走り回っていたように思います。もちろん！おだんごにも精を出していたのも覚えています。今の小学生は外で遊ぶより、室内で遊ぶという方が多いようで・・・自分とは全く逆で、部屋で遊んだ記憶がまずなかったなあ～と思います。そうすると、時代の変化を感じずにはられません。

時代は変わったとは言え、“いじめ”は私の小学校の頃から存在していました。私は小学生の頃、実際にいじめをした経験も、された経験もあります。いじめられる日というのは突然やってきて、昨日までの生活とは360度違うんですから。私の場合、その時に助けてくれた友達、今となっては大親友と呼べる友達がいたからこそ、今の自分があると言っても過言ではありません。確かに、いじめにあっている時は生きているのが辛い・・・死にたい・・・と思ったのも事実です。でも、実際に命を落とすことなく、今こうやって生きている訳ですから。「死んだら全部終わりやし、死んで悲しむ人がおるんやで、少なくとも私はな。」と、その友達から言われ、一人じゃない・・・と感じた時か

ら“死”というものが頭から消えた気がします。今、自分の命を自ら絶つ子どもがいます。その子ども達には友達がいなかったのかな・助けてくれる友達とは出会えなかったのかな・・・。今は、ニュースでも見かけなくなり、あまり耳にもしなくなりましたが、つい1ヶ月程前まで、子どもがいじめにより自らの命を絶つというニュースが毎日のように耳に入ってきていました。今の子はすぐに死んで、弱いなあ・・・などと言われていますが、“死ぬ=弱い”ではないと私は思います。私だって弱い人間です。誰だって、弱い部分は持っているはずだと思います。でも私は“友達”に助けられ、その弱い自分を分かってくれて、受け止めてくれたんです。私にとって、その“友達”はかけがえのない物、宝物です！！

私が大学に進み、一年前、夢を叶えた時、自分のことのように喜んでくれました。そして、今も陰ながら支え、応援してくれています。そんな“友達”の大切さに改めて気づき、感謝の気持ちが生まれました。今まで、ありがとう、これからもよろしく！そう伝えたいです。

共同幼稚園にやって来て2年目になります。今まで本当に多くの方々に出会い、支えられ、励まされ、応援されてきました。これからも、このことを心におきながら、過ごしていきたいと思っています。これが今の“私”です。

(水田有希)

大岡昇平の小説『野火』と実録『レイテ戦記』に行きつく。『野火』のなかで、ひとりの日本人兵士がもうひとりのアメリカ人兵士を見つけて(むこうはまだ自分を見つけていない状況のなかで)撃たないという決断に達する。そこには日本軍兵士としての作法をこえて、人間に戻る作法がある。

(鶴見俊輔)

「・・・また日と月と星とに、しるしが現れる」「海と大浪のとどろき」(ルカによる福音書21章25,26節)などは、通常 of 自然の営みを越えた何かが起こった時のことを示しています。日のしるしは真昼間に日・太陽が欠けるないし隠れる日蝕、月のしるしは、夜に月が欠けてしまう月蝕、星のしるしは流れ星のことだったりするはずで、海と大浪のとどろきは大きな津浪などのことが考えられます。で、ルカによる福音書は「これらのことが起こりはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救いが近づいているのだから」と言っています(21章33節)。

日と月と星のしるしは、自然の営

みが持たらしめたしるしです。古代の人たちはそんな自然の営みを目の当たりにした時、“悩み”“おじ惑い”“恐怖と不安で気絶する”ほど驚きます。そんなふう to 驚いた自然の営みであるにもかかわらず、そのことの中に“救いが近づいている”ことを読みとろうとしています。と読みとったとされる自然の営みと救いが近づいたにはどんな因果関係もないのはもちろんです。

しかし、“時、変化、記憶、持続性”などを自分の生きる世界として、人が生きているのであれば、因果関係だけで判断してしまふ訳にはいかないのです。

たとえば人は“瞬間の時”と“流れ

日本基督教団西宮公会集會案内		
早天祈禱會	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公会集會室
教會學校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公会禮拜堂
聖日禮拜	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公会禮拜堂
聖書研究祈禱會	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
讀書會	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を讀む會	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮公会集會室

る時”のずいぶんと巾広い時を生きています。たとえば人は、生と死をその時の一瞬の選択で分けてしまうことがあります。更にそんな一瞬の繰り返しの中で、繰り返し生と死とを分けていると言えなくはありません。と同時に、過去から現在そして未来へと流れ続ける時間、止まることのない時間の中で人は生の営みを続けています。そんな、時の流れの中で自らも時を刻んで生きていることの驚きや恐れが、“救いは近づいた”と人をして言わしめたのかも知れません。それがただ巡ってきて、ただ繰り返されるものではないのだと強く強く言いたかったのです。

すべてのもの、すべてのことは変化します。変化すると言われます。ゆっくり、ゆっくり変化するもの・こともあれば大急ぎで変化するもの・こともあります。その時の速度の違いや“ゆがみ”で、人はずいぶん苦労したりもします。変化することで賢くもなったりしますが、愚かになったりもします。そうして、変化するすべてのもの・ことの中の一人(一つ)として人が生きているという自覚が、“救いは近づいた”と人をして言わしめているのかもしれない。

たとえば幼かった頃の記憶はどこまでたどることができるのだろうか。

記憶したことで、それにとらわれ続けるということがあります。記憶と対をなくしているのが忘却です。記憶ではなく忘却、忘れ去ることで人は生き延びていたりもします。忘れ去ることは責任をとらない、ではなくてそれが他者を傷つけない為の人の営みにつながったりもします。日のしるし、月のしるし、星のしるしの記憶は、それが記憶であるが故に、幾重にも重層します。重層した記憶を消し去ってしまう場合もあれば残り続ける場合もあります。そんな記憶と忘却を人が生きている自覚が“救いが近づいている”と言わしめているのかも知れません。

何かをし続けるということは、その人のそのことに対する意志と深くかかわります。しかし、それが人の意志である限り強くも弱くもなります。持続しにくかったりもします。そうして持続させる力はその人の意志に負うところが大きいとしても、それだけでは不十分です。持続させる力は、実は強い意志ではなく、驚きや喜び、悲しみや恐れなどの中にこそあります。そうして持続し生きていることの自覚が“救いは近づいている”と言わしめているのかもしれない。

ですから、人という生きものから、時、変化、記憶、持続性などのことが

失われてしまうとしたら、ただそれが失われるだけでなく、人としての存在の意味が希薄になったりします。ですから、日と月と星の営みがあって、時、変化、記憶、持続性を自分の生きる世界とするのであれば、“あなたがたの救いは近づいた”と言ったとしても全く唐突という訳ではありません。

ならず、夜も月が輝いてあなたを照さず、主はとこしえにあなたの光となり、あなたの神はあなたの栄えとなられる。あなたの太陽は再び没せず、あなたの月はかけることがない。主がとこしえにあなたの光となり、あなたの悲しみの日が終わるからである。」

(イザヤ書60章19、20節)

「昼は、もはや太陽があなたの光と

(菅澤邦明)

---

## ア コ ー ク ロ ー 通 信 ( 1 0 6 )

沖縄の12月、晴れば暑い、曇れば寒い(といっても今のところ15度くらい)という季節です。

「沖縄県知事選挙」の後遺症で、少しボーっとしているところです。

ところで、沖縄には県立の美術館はなく、博物館は首里にあったものが閉鎖中で、現在那覇市新都心に建設中です。来年後半にはオープンするのでしょうか。

沖縄は、沖縄戦後、子供の教育が最優先にされました。そのためまずは教員養成です。同時に米軍政下の自治のための公務員養成でした。沖縄の高等教育機関はそのような役割を果たしたのです。そのような時期に「歴史」だとか「文化」などというのは周辺に追いやられ、ものの役に立たないとされたのは仕方がないこ

とかもしれません。後に各市町村にも「博物館」的なものができましたが、そして今では専門職員も配置されていますが、県レベルでは遅れています。美術館はもっとひどく、現在存在しているのは「浦添市美術館」と民間の「佐喜眞美術館」だけです。ともあれ、その博物館と美術館を合わせたものを現在建設しているのです。ちなみに、道を挟んだ両隣りとも巨大スーパー、向いは巨大パチンコ店です。交通の便を考えたとしてもいってしまうのですが、何か、沖縄の文化理解のレベルが知れるというものです。

今年後半からは、少し新聞などでも論議されているのですが、今後の収集や研究などを含め、疑問だらけで、今時「ハコモノ」だけを作っても意味を成さないのはいうまでもなく、

だいたい年間購入予算など誰も知らないのではないかと思います。

話は変わって、12月、仙台時代の恩師に徐々に沖縄で会いました。沖縄の某大学の講演に来られたのです。75歳、もう歳だといいいながら、相変わらず元気で雰囲気は40代の時とほとんど変わりません。ある課題で、ひところテレビに出ずっぱり、それを見て遠く離れた気がしなかったかもしれません。

論文、ふれたくない話題です。韓国の家族論なんかやめればよかったと後悔しています。他にもいっぱいテーマはあったのに、と愚痴ってる毎日です。

映画、見てないぞ。「蟻の兵隊」くらいかなあ。ああ、あと戦前の台湾原住民を主人公にした李香蘭＝山口淑子の「サヨンの鐘」。映画らしい映画は当分お預けだなあ。

12月、某大学で「社会科教員養

成」科目の、「世界史・東洋史・朝鮮史」を二コマ、集中講義しました。あとで感想を書いてもらったところ、まあまあ好評で安心したのですが、なかに二名ほど、「小林よしのり」的、「2チャンネル」的感想があって愕然としました。日本の文化は独自のもので朝鮮・韓国とは関係ないとか。日本は侵略していないとか。この連中が教員にでもなるのかと思うとぞっとします。解釈はともあれ、歴史的事実を十分伝えられずに残念です。

年末年始、いつもなら、ちょっと日常から離れてアジアを旅するところですが、今回は「論文」でパス、2月になったら少し歩きたいと思います。

ともあれ、よいクリスマス、よい年をお迎えください。

そして、12年目の震災の日、今一度さまざまな出来事を思いかえしたいと思います。

(沖縄・与那原 愛の園 後藤 聡)

---

## 今日は何があるかな？

### ドキドキ ワクワクがいっぱいの12月でした

12月に入り、イルミネーションが町のあちこちで光り輝く素敵な季節となりました。今年も津門川の上に色とりどりの電飾が飾られ、サギやカメなどの形以外にもクローバーや音符の形も新たに加わり、とてもオシャレです。その点灯式が芸術文

化センター前にあるクリスマスツリーの点灯と共に行われました。真っ暗だった辺りがパッと明るく華やかになったあの瞬間は忘れられません！言葉にはとても表現しきれない程のキレイさで、時も忘れてしばらく見とれてしまっていました。ク

クリスマスツリーと言えば、幼稚園の園庭にも立派なものが飾られています。卒園児、在園児のお父さんたちが子どもたちの為にといいあたたかい思いで用意して下さいました。幼稚園にいても大きなツリーを愉しむことが出来るなんて・・・なんて幸せなんだろう！！とお父さんたちの心づかいに感謝の気持ちでいっぱいです。そして、園舎には、サンタクロースの形をしたアドベントカレンダーや大きな靴下、それぞれが思い思いに製作したマツボツツリーも飾られて、ますます賑やかに 色々なイベントも盛りだくさんで、子どもたちと一緒に楽しませてもらいました！全クラスで芸術文化センターまで行き、見せてもらった糸あやつり人形は、とても面白かったです。グリム童話の「かえるの王子様」のお話は私も大好きで、どんな風に人形で見せてくれるのだろうか子どもたちに負けないぐらいドキドキ・ワクワクしていました。たった一人で場面転換をしたり、セリフにピッタリの人形の動きに、まるで人形に魂が宿っているのではないかと、思ってしまう程、すごかったです！その後の麒麟のリンちゃんの腹話術もとても面白く、うがいの仕方がわからないリンちゃんは思わず飲み込んでしまったり～で大笑いしていたお友だち。幼稚園でうがいをする時には、リンちゃんの事を思い出し「おもしろかったよな～」なんてつぶやきも聞かれました。そんなとびっきりの時間は、まだ

まだ続きました。各学年でのクリスマスおたのしみ会や、クリスマスランチ そして“クリスマス”に限らずアツ！！と驚く様な集まりも！！大きな大きなスイカや、氷見産のブリの登場に目を丸くさせていたお友だちです！スイカの重さ当てクイズには、教師だけでなく、お母さんたちも加わって下さり、にぎやかに楽しく過ごさせてもらいました。ブリに包丁を入れて、目の前でさばかれる様子に、初めて見た子どもたちは～何とも言えない顔をしていて、すごくおかしかったです！早速、ブリのエキスがたっぷり入ったお汁をその日のうちに頂きました。とても貴重な体験をさせてもらっている毎日に感謝です。12月ももうすぐ終わり、新しい年を迎える時期が近づいているなんて何だか信じられませんが、一日一日を大切に目一杯楽しんで過ごしていきたいと思っています。みんなが心待ちにしているクリスマスがすむと冬休み！！どうか、みんながステキなクリスマスを過ごし、そして元気に新年を迎えることが出来ますように

(古戩佑季子)

## 2007年1月 あんなこと こんなこと...

1月 日(月) 早天祈祷会

1月 田6火(火) 午前10時~、ゆっくり聖書を読んでみませんか

1月 田4日(日) 午前10時45分~、兵庫県南部大地震追悼礼拝

1月 田7水(水) 午後6時~、兵庫県南部大地震記念の日追悼礼拝

「人生の大震災」広瀬満泰牧師、於：神戸教会

1月 田8木(木) 午後6時~、兵庫県南部大地震から1年のセミナー

「1995年1月1日の兵庫県南部大地震、被災地を訪ねた“僕たちが見たこと、僕たちが考えたこと、僕たちにできたこと、僕たちにできなかったこと”」於：西宮門戸教会

にしきた商店街...

・ 月1日7日(日) 午後1時30分~、津門川掃除

・ 月11日(日) 午後2時~「住民：意見言いたい会」

「こんな川のある街だったらいいなあ・・・！」と題して川について、また街について意見を交換し合う時を持ちます。於：西宮公会堂集会室  
アートガレージ

・ 野菜市：1月1日(火)

関西神学塾

・ 月1日(金) 桑原重夫先生「使徒行伝を読んでみよう」

・ 月1日(金) 勝村弘也先生「死海文書を読む」

・ 月2日(金) 田川建三先生「マルコ福音書註解(中)」

---

## 私が出会ったいろいろな人たち

10月末に福永年久さんの「自立生活30周年記念パーティー」に参加しました。障害児・者情報センターを代表し、菅澤牧師と下平さんと3人で出席させていただきました。福永さんは阪神障害者解放センター創設者であり、障害者として生きるということに関して、世の中に問いを発したり、自分の生き方を模索したり、時には闘いながら生きてきた方です。自立といっても24時間介護

という形をとりながらの“自立”の30周年のお祝いでした。そんな福永さんのお祝いの中でいくつかビデオの上映があり、震災当時福永さんに密着したドキュメントなどが流されました。その中に福永さんと共に活動をしていた「Kさん」が出てきました。

今回はそのKさんとの出会いについて書きたいと思います。ビデオの中に友人のKさんが出ていてとても

驚いたのですが、彼とは大学生のときに知り合いました。障害者の方達の生き方や現在の日本の状況などを知る為の授業に出席していたとき、授業の最後に車椅子にのってKさんが現れ、ボランティアの募集の呼びかけをしていました。関学生では無かったのですが、近くに住んでいるということでKさんは関学を訪れたようです。隣りに座っていた友人が「一緒にボランティアしよう」と言うので、一緒にKさんのところに行ってボランティアをしたいと申し出ました。のちのちになって解ったのですが、彼は特にボランティアを募集したかった訳ではなく、色んな人と出会うきっかけがほしかったそうです。やる気だった友だちはKさんと意見が合わずにすぐにやめてしまいましたが、なぜか私は彼と気が合い、今でもいい関係を続けることが出来ています。

Kさんはとてもこだわりの強い人で、自分で自分のことを「ひねくれている」と言っていました。そんなKさんに教えてもらったことはたくさんありました。当時彼はさだまさしの歌が好きでよくコンサートと一緒に行きました。介助というよりも一緒に楽しませてもらっていました。彼は車椅子の人用に設けられた場所でコンサートを聴くのはいやだから、自分が取ったチケットの番号の席に意地でも座る！と言って係の人にわざわざ担いで席まで運んでもらったり、係の人が私に説明をし出すと、「この人は関係ない、ぼくに話してく

れ」と言ったり、色々あった後、チケットの番号と同じ席に座って一緒にコンサートを聴くのはとても思い出深い時間になりました。

Kさんの買い物を手伝ったり、出掛ける時に付いていったりしながら、おしゃべりをしたり、悩み事を聞いてもらったり、いつしか友人の一人としてお互いの関係を作っていくことが出来るようになりました。「健常者がこわい」と言われてショックを受け、そのことについての思いをお互い真剣にぶつけあったり、「約束をした時間に遅れる時は必ず連絡を入れて欲しい、ぼくはいつもどこかでもう二度と来てもらえないのではないかと友だちに対して思ってしまうから」と言われ、1分でも遅刻しそうな時には必ず電話を入れるようにしたりしました。そんな思いを素直に話してくれるKさんに対して、私もいろんな思いを隠さず伝えることが出来ました。育ってきた環境や、親との関係、色々な経験がKさんを不安にさせていることも知りました。健常者、障害者、男、女、性格の違い・・・人間の色々な違いの中でも、「知り合う」ということが自分の考えを広げてくれるきっかけになることを教えてもらいました。

思いもかけず福永さんのドキュメントビデオの中にKさんを見つけて、ひさしぶりにおしゃべりがしたくなりました。最近はなかなか会えていませんが、手紙でも書こうと思いません。

(田中知恵)

## 大切な贈り物・津門川 53

“津門川に向き合い、津門川に学ぶ。”

西宮生まれの西宮育ちの僕は今年で2歳になりました。しかし、どこまでも自然な姿をした川というものを見た事はありません。人の手によって、人の都合良く姿を変えられた川はいわば自然とは呼びきれない、何処か無機質的なものを感じます。この近辺で有名な武庫川や、夙川。上流にはまだ自然の姿が残っているのかもしれませんが、下流が生活拠点だった僕は、川というものの本来の姿を知らずに、コンクリートで固められたりブロックで敷き詰められたその姿が僕の知っている「川」です。そういう意味では津門川も同じでした。大きな川とはいえませんが、にじきた境界の象徴の一つである川です。しかし、今僕にとっては先に挙げた川よりも、大きな大きな存在になってきています。それは、この十月、初めて津門川の川そうじに参加させていただいてからのことです。

掃除をしながら、川はどこまでも、正直者なのだと感じました。そして聞き取ろうという心さえ持っていれば、常に語りかけてきているということも。たくさんの魚が泳いでる横で、川から揚げられてくるあき缶やビニール袋等が、伝えてくるメッセージ。仮に上流で捨てられたもの

であったとしても、それが意味するものはその流域にかかわる全ての人たちに向けられたものであるのは想像に容易いものですよね。また、川を掃除するために集まってくる人たちの「川をきれいにしよう。」という一つの目標を達成するための団結力や、新参者の僕を暖かく迎えてくださったコミュニティの素晴らしさ。津門川に向き合いながらやっぱり人と人が協力するって素晴らしいことなんだ。と、学ばせていただきました。

それ以来僕は、毎朝17号線のちょっと南側から川を眺めながらゆっくり自転車で走ってくるのが日課です。今日も何羽かのカモ達が。魚達も元気に泳いでいました。彼らが口コミでたくさんの仲間をつれてきてくれるよう、川そうじにも、そして津門川の声にも耳を傾けていきたい、そう思っています。

(正木隆司)

## 教会学校から

### 《12月の活動報告》

- 12月 3日(日) 青森から届いたりんごの皮むき競争しました。
- 12月 10日(土) わがまちクリーン大作戦に参加しました。
- 12月 17日(日) クリスマスツリーを手作りしました。
- 12月 19日(火) 午後4時30分～合同子どもクリスマス会でした。
- 12月 24日(日) クリスマス会、もみの木パーティー。プレゼント交換(一人30個以上のプレゼントを用意)。この日は、キャロリングの後、教会学校高学年のお友だちとのお泊まりクリスマス会。)
- 12月 31日の教会学校はお休み。新年度は2020年1月7日から始まります。

### 《1月の活動予定》

- 1月 1日(日) 午前1時～ 新年礼拝
- 1月 7日(日) 新年カルタ大会です。
- 1月 14日(日) 午前1時45分～、兵庫県南部大地震追悼礼拝(合同)
- 1月 21日(火) オリジナル凧作り。
- 1月 28日(日) 作って食べよう! おもちでピザを作るよ

### たのしい学習塾

小学校1年生～4年生対象(教会学校登録者に限る)

日時 ...毎週土曜日午後3～5時

場所 ...西宮共同教会1階集会室

(日によって異なります)

参加費...450円/月/約4回、教材費含む)

小学校5年生以上(教会学校登録者に限る)

日時 ...毎週土曜日午後7～9時

場所 ...西宮共同教会1階集会室

参加費...450円/月/約4回、教材費含む)



## まいの勝手に何でも案内

どうもこんにちは。風邪などはやっているようですが皆様お元気でしょうか。

私は冬眠願望と末端冷え性とに日々苦しみながらも元気です。というか気づけばクリスマスパーティーやら忘年会やらライブ(この前紹介したRADWIMのライブにまた行きます!)やら、予定が目白押しで、体調を崩せない状態です。ちなみに学業に関する予定は一つとしてありません。あぁーこんなはずじゃなかったのになぁ・・・。

というわけで、先週末には強行スケジュールで東京に行って参りました。友達に会ったり兄宅を荒らしたり、なかなか有意義な二泊三日だったんですが、一番のお目当ては上野の森美術館でやってる、ダリ回顧展でした。九月に東京遊びに行ったときに次期展示宣伝としてのポスターを沢山見て、行きたいと思っていたのですが、関西には来ないということだったので無理に行って来た次第です。いやーすごかったです。行った甲斐がありました。興味やら関心のある分野上(一応大学での専門は西洋史なので)美術館や博物館の展示に割とよく行くのですが、最近は当たりが多くて嬉しいです。2006年のベストはルーブル展(古代ギリシア彫刻展)かなと思いますが、大絵巻

展も良かったし、プラド美術館展も兵馬俑展も見ごたえありました。うーん満足。2007年も良い展示に巡り合えますように。ていうかポンペイ展行かなきゃ。天保山ミュージアム遠いよー。

で、話がずれてしまったんですが、今回は興奮冷めやらぬままダリ回顧展の紹介をしたいと思います。というかダリの紹介ですね。まず根本的な話として、ダリというのはスペインの画家です。美術の教科書とか世界史の資料集とかで、グニャグニャした懐中時計が砂漠っぽいところで岩にかかっている絵を見たことがある方もいるかと思いますが、あの絵の作者です。で、そんな本で見るからには大分昔の人かと思いきや、1989年に8歳で亡くなってるんで、むしろ私が3歳の時までご存命だったのね!と驚きました。更に驚いたこととしては、シュールレアリズム画家として有名な彼も、若い頃は普通の絵を描いてました。もう中期からはダリワールドとしか言いようのない画風になってしまうんですが。ピカソもそうですが、画家として元の技量が高くないと、理解不能な絵は描けないんですね。理解と言え、展覧会でこんな名言が紹介されてました。「私の絵を理解してもらおうだって?描き手自身の私だって、理解出来な

いのだから！ただ、理解不能だから  
といってその絵に確たる意味がない  
事にはならない。逆に意識では捉え  
られない、体系的で一貫した複雑且  
つ深く激しい意味を表わし得るので  
ある」もはやこの言葉を理解するの  
にも時間がかかるんですが、ダリが  
すごく自信家の変わり者だというこ  
とをよく表していると思います。彼  
を語るにおいて、「偏執狂」と「シュ  
ールレアリズム」という二つの言葉が  
よく使われるのですが、実際その二  
語は彼をよく表しています。まず外  
見が普通じゃない。何なんですかあ  
の口髭は(カット参照)。寝るときは  
一体どうしてるんですか。そして奥  
さんへの入れ込み方が半端でない。  
奥さんはダリより十歳ほど年上の方  
で、元々知り合いの詩人の妻だった  
んですが、ダリ2歳の時に会って強  
く言い寄られまして、夫を捨て彼を  
選んだそうです。正式に結婚したの  
は出会って三十年も経ってからでし  
たが、ダリは彼女をミューズとして  
崇め、様々な絵に登場させてますし、  
お城を彼仕様にカスタマイズして彼  
女にプレゼントしたりもしてます。

何かネタ的な話ばかりになってま  
すが、絵自体もやっぱり素晴らし  
かったです。変だけど。グロい感じか  
と思いきやそうでもなくて、どこと  
なく砂漠を連想させる色使いで、日  
本ではありえない乾燥具合の青い空  
と黄土色の岩が印象的でした。あと  
小さい人間がほとんどの絵に登場し

てたのも気になりました。「気持ち  
悪い」というよりは「奇妙」という表  
現がしっくりくるかなと。個人的に  
は、昔の美術作品を利用した作品が  
好きでした。ベラスケスやミレーの  
絵画、ネロやナポレオンの像などの  
有名な作品を、彼のフィルターを通  
して見ると、全く違った世界が広  
がっていて非常におもしろかったで  
す。前述の通り、彼自身が「自分も  
理解できない」と言っていること  
によって、見るほうも「あれはこう  
いう意味を持って・・・」とか余計な  
むずかしいことを考えず、気楽に  
素直に見られたんですごく良かった  
です。

紹介というより感想になってしま  
ったんですが、これで少しでもダ  
リに興味を持ってもらえれば嬉しい  
です。ネットで結構絵もでてきます  
し、ちょっと調べればもっと色々分  
かると思います。それではまた次回。

(高橋 舞)

## 今月のあ・そ・び カードで遊ぶ

7、8年前のこと、教会学校の子どもたち(5年生以上)と、“突然夏山歩き”で多紀連山(小金ヶ岳・三岳)を歩いたことがあります。案内が前日だったのに、5～6人の子どもたちが土曜日の朝には現れました。山を歩いた日の夜は、氷上の成松教会に泊めてもらいました。礼拝堂で夜を過ごす間に、礼拝堂の隅からカルタを見つけてきて遊び始めました。そのカルタで遊んで大いに盛り上がっていました。で、そのカルタは、古い古い「新約聖書かるた」でした(上沢謙二案、野崎貢画、福音館書店発行、¥80!)。たとえば“う”の字絵札のイエスの誕生の絵は、カラーですが、いかにも安っぽく、字札も「うまやの なかで おたんじょう」(ルカ2, 6-7)とこれも単調です。ところが、こんなカルタですが、表現が珍しかったのか、とにかく楽しく盛り上がって遊びました。そんなことより何より、勝手に知った仲間と遊ぶ時間が楽しかったのかも知れません。

そんなカルタ・カード遊びについて。

「越中富山魚(とと)あわせ(魚“とと”工房、関西総合環境センター宮津事務所内)。たとえば鰯(あじ)だったら、魚の札と参の札を合わせると

鰯になって絵も完成するという具合のカードです。という魚の組み合わせが32種類です。ですから、魚の文字、だいたいの様子も解る便利なカードです。

「きりがみ、江戸いろは」(安野光雅、新象社)は、“江戸いろは”の決定版です。読み札も取り札も安野光雅の切り絵で、更に文字も切り絵で、更にたとえば“月夜に釜をぬく”など内容も昔のままです。なのにこの江戸いろはで遊びが盛り上がってしまうのは、どうやらその判別のしにくさにあるようです。そして、安野光雅の解説書が付録になっていて、それは立派な読みものになっています。「かったいの瘡うらみ」も、そのまま残していますが、他の江戸いろはでは内容が変わっていたりします。

「ごん太」(考案、志田竜彦、ねこの事務所)。54枚の文字カードとカードのすみの記号文字などを組み合わせ、単語を作って遊びます。単語の知識は大切ですが、思いがけない単語の出現や、更に単語から短い文章への発展も楽しんだりするのが「ごん太」です。ひっくり返ると“太(た)んご”になります。

(菅澤邦明)

つとがわ  
編集後記

一年が終わろうとしています。とまるどころを知らない、坂を下っている思いで一年を過ごしてきました。たとえば、自然の営みというこでだったら、いちようは葉っぱが落ちてしまった後も、その実・ぎんなんを残しています。ケヤキの葉っぱは、およそ半分が紅葉して落ち、残りは枯れたまま今も枝に残っています。何かの予兆なのかも知れません。そうなのですが、少なからずいていに生きて、たぶんそんなことの結果、いいこと、いい人との出会いもありました。種が芽を出す様子も、少なからず見てきました。

( K )

クリスマス、何だかそう聞くだけで心が弾んでしまうのは何故でしょう。小さいとき、夜中にこっそりやって来たサンタさん。姿は見えないのに足音は確かに聞いた。そんな記憶が心に残っています。サンタになってくれた両親だったのか、ほんとにサンタさんだったのかわからないけれど...メリークリスマス！皆さんに暖かいステキなクリスマスが訪れますように。

( I )

先日、ルミナリエに行ってきた。4年ぶりに見に行ったら～ずいぶん進行方向が違って、しかも入口まで“60分”という看板が出ていてビックリ！！すごい人でした！！この時期は色々な所でイルミネーションが街中あふれていて寒さも忘れてしまいます。帰り道には色々な家の前をチェックして帰ったり～楽しんでます。

( Y )

幼稚園時代、仲良しだった友だちと先日、空中庭園に行ってきました！そこか

らの夜景はとてもキレイでしたが、大阪の街はとても明るいなあと感じました。幼稚園の2年間だけしか一緒じゃなかったのですが、今でもこんな風に会うことができ嬉しいです。これから大切にしていきたいなあと思いました。

( N )

先日、組み木作りをする機会がありました。糸のこは苦手で、切る前は緊張しましたが、ひとつひとつのパーツが出来ていくのはすごくワクワクしました。ガタガタだったりいびつだったりしますが、世界にひとつしかない自分だけの組み木モノを作る楽しさを改めて感じました

( Y 2 )

こんな小さな欄だけれど、「まず“ J ”を読むのよ」といろんな方に声をかけていただいて～。“小悪魔”は元気で、益々おしゃまさんです。時々3歳と会話しているとと思えないことも。寝る前の絵本、しまじろうを持ってくるから「それいややな」と言うと「そんなこといったら、しまじろうがかわいそう、なくてしょ」とおいでなすった。寝ないとおおかみ(小さいころからこれが苦手)が来るという話になって「おかあさんやぎ、食べられちゃったものね」と眠気眼でつぶやいたら「おかあさんじゃなくてこやぎでしょ」。すいません、もう半分寝てるもんで。「たべられないようにあかりちゃんとはけいのところにかくれるわ」、うん？おぬし出来るな。“ノンタン”“アンパンマン”“しまじろう”

3種の神器に、眠気もあってもっていかれそうになりながらも、“おおかみはホフマンよ”のばあばです。

( J )